

鹿児島大学脳神経外科における国際協力と外国人医師の養成

現在、日本では脳外科専門医数が7200人を数えており、アメリカを越えて世界で最も充実した人的資源のもとで神経疾患の診断と治療が行われています。これは、日本では脳神経外科が単純に脳の手術を行うばかりでなく、神経疾患の全領域をカバーする唯一の基本診療科と位置づけられ、実際に、神経救急、神経放射線診断、脊髄疾患、神経リハビリ、定位放射線治療、慢性期療養まで幅広い臨床を行っていることにもよります。一方、目を国外に転じてみれば、東南アジア、南アジア、アフリカなどほとんどの地域では、脳外科の数は人口比で日本の1/50-1/100に過ぎません。このため、これらの地域での脳外科医の役割は大部分が頭部外傷や脳卒中など救急疾患への対応に限られ、脳腫瘍や予防的手術など日本では当たり前の治療が十分に提供出来ない状態です。

このような状況を少しでも改善すべく、当教室はこれまで多くの発展途上国の若者を受け入れ、脳外科医として育て、本国に送り返し、各地での脳外科の発展に寄与してきました。

有田和徳教授が受け入れてきた留学生

1990-2005

博士課程(4.5～5年間)

インドネシア国2名

ネパール国2名

中華人民共和国1名

2005年以降

博士課程(4.5～5年間)

インドネシア国1名

ネパール国2名

バングラデシュ国1名

短期

コロンビア国1名(3年間)

インドネシア国5名(1-6ヶ月)

2014年度も新たに1～2名の留学生を新たに受け入れる予定です。

私たちは、このような外国人の受け入れのみならず、現地での技術指導も重視しています。有田和徳教授は、これまでに中国、インドネシア、ネパールの3カ国で30回近くの現地技術指導を行ってきました。これも、ハイテク医療機器の充実した日本において医療技術を教えるだけでは、基本的な医療機器がそろっていない現地の医療に、日本で学んだことを反映させることが出来ないからです。たとえば、ある国ではマイクロサージャリーを導入するためには、どこの病院でもあるような耳鼻科用や眼科用の簡単な顕微鏡を使って実際にデモンストレーション手術を行う必要性もありました。また、別の国では、吸引管はあり合わせの金属管というセッティングで、なんとか脳動脈瘤のクリッピングを成功させる必要性がありました。場合によっては、日本では選択しないような手術アプローチを敢えて選ぶ必要もあります。そういう実践的な指導の積み重ねから、自分たちの病院でもこんな手術が出来るんだと実感してもらい、アジアの若い脳外科医が一步進んだ脳外科手術を自ら実施出来るようになってきています。これからは鹿児島大学の若い医局員が分担しながら、現地技術指導を続けて行きたいと思っています。



バングラデシュ、ダッカ医科大学にて (2014年3月25日)



カトマンズ、モデル病院にて(2004年10月)



インドネシア国、ディポネゴロ大学にて (2005 年)



中華人民共和国浙江省第一人民医院にて

このように、鹿児島大学では常に外国人医師を受け入れていますので、カンファランス等は出来るだけ英語で行うようにしています。最初は、「患者が紹介され--」を **was introduced by---**、「患者が診断された」を **was diagnosed as---**などと言っていた若い教室員も、少しずつですが的確な英語を身につけてきています。何よりも大切なのは、臆せずに英語を話す癖がついてきたことで、若い人たちの医師としての今後の人生に優れた影響を与えることと思います。

また、一方、異なった宗教を背景に持っている複数の留学生がいると、教室の催し事での食事には気を遣います。ヒンディーで牛は絶対だめ、ムスリムで豚は絶対だめ、そのほか動物や鶏を食べる場合にはハラル(Halal) 認証が必要です。食事のみならず、生活全般における文化的差異、こうした事に対する思慮深い対応は、世界の人々の移動が活発になるにつれ、日本の若者も必ず身につけなければならないお作法ではないかと思います。

鹿児島は古くから、広く世界に視野を開き、また世界の英知を吸収してきた技術と文化の **hub**(流通拠点)でした。現在、当大学院医歯学総合研究科では離島へき地医療人育成センターのプロジェクトを通じて、アジア・環太平洋圏における離島へき地医療人の人材育成

を推進しています。私たち脳外科教室でも、引き続いてアジア・環太平洋域からの留学生を積極的に受け入れ、技術と知識の移転を進め、鹿児島大学医学部の国際化に寄与すると同時に、一方では私たち自身が文化多様性への対応能力やコミュニケーションスキルを高めたいと思っています。

最後に、留学生の受け入れにあたり、多大な御協力、御支援を賜っております医療法人慈風会理事長 厚地政幸先生、財団法人慈愛会理事長 今村英仁先生をはじめとする鹿児島県医師会の諸先生方、また留学生の研究指導に御尽力いただいている生体情報薬理学教室 宮田篤郎教授、分子腫瘍学教室 古川 龍彦教授に深く感謝申し上げます。さらに、鹿児島大学脳神経外科教室の技術補佐員の女性達には細やかな配慮で留学生達の御世話をさせていただいております。

何かの折りにこれらの留学生達にお会いされることがありましたら、気楽に御声掛けいただき、交流を深めていただければ幸いです。

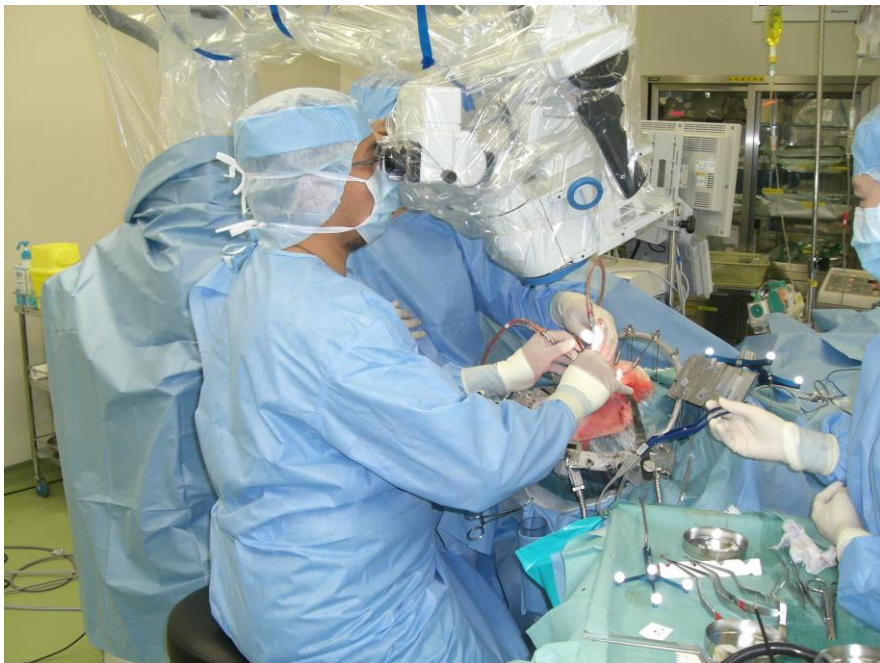
2014年4月1日

鹿児島大学院医歯学総合研究科脳神経外科学

医局長 大吉達樹



短期留学生達の発表会を終えて(2014年3月、鹿児島大学鶴陵会館)



厚労省許可外国人臨床修練生による臨床実地研修 (2010年11月)



留学生を中心とした神経生理学勉強会

(2010年11月、鹿児島大学脳神経外科教室にて)